

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2090300092	
法人名	社会福祉法人 山栄会	
事業所名	グループホーム諏訪形	
所在地	上田市諏訪形字中山田1694-4	
自己評価作成日	平成25年11月15日	評価結果市町村受理日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 福祉事業部	
所在地	長野県松本市巾上13-6	
訪問調査日	平成26年2月21日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本人の意思決定を尊重しつつ、必要と要求的確に見極め、目的行動が容易に達せられるよう、状況に応じたケアを心がけている。特に運動機能は、生きる力であり、楽しく動く工夫を模索し、工夫を凝らし生活行動が容易にできるよう支援している。自由に動けることは生きる喜びであり、食事、排泄、入浴、余暇活動全ての生活行為に生きる意義を実感できるよう語りかけ、息遣いを感じられる距離で話し、互いに支え合って生きる時間を共有している。日常の喜怒哀楽を共感的に理解し、必要な援助を必要だけ提供することに徹し、過不足のないサービスと、自分らしさを取り戻す過程に積極的にかかわる取り組みを行っている。歩行機能維持向上には一定の成果があり、便秘の改善、尿失禁の改善、パット類購入の負担軽減に役立っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

集落から少し離れた坂の途中に事業所はあるが、地域との繋がりを大切にして、各種の地域行事への参加や事業所行事への招待、日常的な散歩などを通じて地域の中に溶け込んだ暮らし作りを心掛けている。重度化や終末期対応は本来の事業所の住み分け区分の中で、看取りは行わない方針であり、利用者は比較的元気な方が多い。運動機能保持に力を注ぎ、日々の散歩や買い物外出、食事や清掃の手伝い、トイレの利用や入浴への取り組みなど、必要なだけの支援を得ながら、自分らしさを保って、笑顔で希望を持って暮らしていけるよう支援している。一日一日が大切な日となるよう、利用者の声をゆくり、落ち着いて聞いて、利用者の思いが叶う暮らしとなるよう取り組んでいる。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名( )		項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します	
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>イベントでは地域の方、ご家族を招き共感・共有し地域交流の一助になっている。地域の方々からは季節の野菜をいただいたり、自治会の行事等にも参加している。</p>	<p>その人らしい人生や尊厳を盛り込んだ事業所独自の理念を持ち、玄関や居間兼食堂に掲げている。カンファレンスや介護計画作成時に理念との整合性を話し合い、理念の共有化や意識付けの継続的な取り組みをしている。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域の防災訓練に参加している。自治会の文化祭に作品を出したり観賞するなど交流している。</p>	<p>地域行事(どんど焼き・文化祭・防災訓練)の参加、事業所行事(夏祭り・クリスマス会・紙芝居)に招待、自治会の回覧、高校生の体験学習の受け入れなど地域の事業所としての位置を確立し、地域の中に溶け込んだ暮らし作りをしている。日常的には散歩時の挨拶、お裾分けも頂いている。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>戸外を自由に散歩する姿を通じ、「自由な生活・人として当たり前の生活」を理解してもらっている。</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>利用者が参加し、意見・思いを出しやすい会議のもち方を工夫して、サービスのあり方・方法を検討している。</p>	<p>行政、地域、家族、利用者の参加の下、運営状況・外部評価・課題等が透明性を持って報告され、委員からも多くの意見を頂いている。行事との同時開催もあり、委員が楽しく積極的に参加できるよう工夫もしている。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>市が開催する研修には必ず出席し、保険者の情報を得ている。運営推進会議を依頼し市も欠かさず出席している。</p>	<p>運営推進会議への行政の出席があり、事業所の現状の理解は得ている。月始めには担当係との話し合いを行い、必要に応じて電話や訪問による相談もしている。介護相談員は3か月に1度、2名で訪問があり、各種の提言を頂くなど、行政との協力関係は築かれている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>玄関等の鍵は夜間防犯のための施錠はするが、日中は解放し危険行為に及ばない戸外活動を推進している。</p>	<p>職員会議や研修会で身体拘束しないケアについて学習し、地域の中でその人らしい生活が出来るよう支援している。玄関の施錠はなく、職員の見守りの中で自由に事業所周辺の散歩を楽しむ方もいる。拘束に伴うリスクについては家族と話し、理解を得ている。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>介護保険情報等により、虐待の現場の背景にあるものに関心を寄せ、自らの事業所を振り返っている。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>地域ケア会議で成年後見制度を学んだ。ケアカンファレンスにおいて、その必要性や意義を話し合っている。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>新規契約時には、十分な説明を行い月ごとの報告でも不審な点への投げかけを行っている。</p>		
10	(6)	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情受け付けは、玄関入口に記入用紙を置き苦情を言いやすい雰囲気作りに努めている。また、計画作成に反映する必要がある事項は、関係各位と会議を持ち検討したうえで応じている。</p>	<p>利用者は日々の会話や表情などで思いや意向を把握し、家族は面会や電話で意見や要望を聞いている。玄関脇に苦情箱はあるが、提言などはなく、家族が直接話してくることが多い。毎月、「入所中のご報告」により日々の様子を伝え、家族との信頼関係作りをしている。</p>	<p>苦情処理のシステムの中で、第三者委員の明示がないので、委員を選任されることを期待したい。なお、第三者委員は名前だけという事業所が多いが、事業所を訪問する機会が多くなるよう工夫することが望まれる。</p>
11	(7)	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員が自由な発想で意見提言を出せるよう、服務規程に提唱している。</p>	<p>人事考課やキャリアパスが導入されており、管理者との個人面談の機会があり、職員の意見や提案を受け入れる機会となっている。研修の機会、資格取得への配慮、悩み等の相談者もいて職員のやりがいや向上心を引き出す工夫もしている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<b>就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の個性を尊重し、長所・短所の把握に努め助言しモチベーションの維持向上を図っている。		
13		<b>職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画に沿い、研修マニュアルを活用し内部研修だけでなく、専門職能団体が開催する研修にも積極的に参加している。一人ひとりが資格取得に意欲がある。		
14		<b>同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議、介護支援専門員協会、介護福祉士会、物忘れネットワークなど人事交流の場で交流をし、他事業所の様子を聴いている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人及び家族と面談しニーズを把握している。そのニーズに対し、センター方式を用い課題分析を行い、本人及び家族の支援方針を決定している。		
16		<b>初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人及び家族の思いに耳を傾け、サービスを開始する前にカンファレンスを開催し、職員全員が情報の共有を図り、不安等を軽減できるように支援している。		
17		<b>初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の段階から本人及び家族の思いを最優先に活かせるように心がけている。ニーズの解決すべき優先順位を提示し、本人及び家族と話し合いながらサービスの方向性を見出して支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に利用者に対し、出来ることはないかということを探ったり、在宅での生活を知るように努めている。利用者の役割を奪わないように支援を行っている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、入所の様子を担当の職員が、用紙に記入しお知らせしている。衣類等の身の回り品を家族に用意してもらうなど、本人と家族の関係を断ち切らないように常に心がけている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り外食、買い物等の外出の機会を作り、日々の会話の中に出てくる場所や、懐かしい場所に行けるように配慮している。普段の会話の中にも家族の名前や、馴染みの場所等の話題を出し、思い出してもらえるように努めている。	家族等の面会はあるが、知人や友人の訪問は少ないのが現状である。近所の人や習い事を一緒にされた方が来たり、家族の協力で墓参りをする事はある。ドライブ途中で自宅や生家を見たり、懐かしい場所の話をしたりして胸の奥にある思いを引き出す支援もしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの個性、関係性に配慮して席についてもらうようにしている。利用者が孤立しないように、職員が間に入り談笑できる環境や、雰囲気作りを心がけている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後でも、何らかの相談があった場合には、対応が出来るように努めている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスを月に1回開催し、利用者の気持ちを踏まえた意見交換を行っている。ひもときシートを用い、職員本位になっていないか検証を行い、常に利用者本位のケアになるように気をつけている。	センター方式を土台に、生活歴や価値観を把握すると共に、言葉や表情、態度、家族からの情報を基に、「今の思い」を把握するよう努めている。利用者や家族のつぶやき、職員の感じたことを記録し、介護計画作成時の検討材料にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族とのコミュニケーションの中で知りえた情報を、カンファレンスで確認し合い、共有している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	焦点情報への記入、水分排泄管理表で現状の把握に努めており、日々の変化に対してもシフトの交代時に申し送りを行っていて、情報の共有、理解に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族から要望が出た時等、必要に応じて本人、家族、職員とカンファレンスを行い、計画の見直し、アセスメント、モニタリングを行っている。	センター方式を土台として、利用者や家族の思いや要望を聞いて、カンファレンスを通じて介護計画を作成している。1対1の利用者の担当制があり、意見や提案を行い、モニタリングするなど計画作成に係わっている。毎月、全員のカンファレンス・モニタリングを行い、6か月毎に、モニタリング・評価・見直しを行っている。心身の変化に応じた臨機応変の見直しも行き、現状に即した計画となっている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、焦点情報に時系列を追って記入するようになってきている。ひもときシートを活用しながらアセスメントを行い、状況に応じて介護計画の見直しを行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者及び家族の立場にたち、発生したニーズを取り巻く要因等にも目を向けながら、対応できるように心がけている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市の職員も参加する運営推進会議をはじめ、地域のボランティア、地域の住民との交流等、利用者が地域の一員として、暮らしていることを実感できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>利用者が入所する前からのかかりつけ医を受診されている。その際家族の付添にて受診している。</p>	<p>利用者や家族の希望するかかりつけ医になっており、家族が事業所からの情報を得て、受診の付き添いをしている。受診結果の共有化も出ている。歯科等の専門医受診も同様であり、適切な医療を受けられる環境となっている。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>身体的な気付きや異変は、職場内の看護師に相談し、家族、かかりつけ医に報告、連絡、相談を行っている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者が入院した時には、焦点情報、バイタル経過、排泄状況、水分、食事形態、摂取量等記録の複写を提出している。入院中においては、病院関係者や家族から情報をもらい、療養中の情報を得ている。退院時に出してもらおうサマリーから、退院後の生活の組み立てを行っている</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所時に、当施設は看取り介護を行っていないことを本人、家族に説明を行っている。</p>	<p>事業所としての住み分け、医師や看護師の協力を得られないこともあり、看取りは行わない方針であり、利用者や家族の理解は得ている。利用当初より他の事業所への申し込みについての話し合いがされている。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>即座の対応としてのマニュアルはないが、判断を仰ぐ連絡網を整備して救急体制に備えている。救命救急法やAEDの操作の講習会を定期的に行い、全職員が受講している。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>自治会と災害時協力応援体制を結んでいる。防災訓練も定期的に行い、夜間を想定した訓練も行っている。</p>	<p>消防署の協力を得て、昼・夜想定防災訓練を年2回行っている。個々の携帯電話に一斉送信できる緊急連絡網による呼び出し訓練も行っている。地域の災害協力応援体制もあり、地域の方の防災訓練への参加協力を得られた。自動通報装置、スプリンクラーの設置、食糧の備蓄もあり災害への備えは整っている。</p>	<p>スプリンクラーの効力や消防車の到着時間など、消防署と現実起こり得る状況を検討し、訓練が実践的なものとなるよう対応することを期待したい。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念にも一人ひとりの尊重が唱われている。人格の尊重、言葉かけ、対応は研修の場を設けている。	尊厳については理念・運営規程などに明文化されており、個人の書類も鍵の掛かる保管庫に収納され、誇りやプライバシーに関する認識は職員の中に浸透している。日々の言動のチェックは職員同士で気付いた場で注意し合い、誇りやプライバシーを損ねない言葉づかいに配慮している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との信頼関係を築くよう努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	天気など考慮して日光浴、周辺の散歩、ドライブなど希望に応えられる限り実践している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2～3か月に1度美容師が出張しヘアカットを行っている。ヘアスタイルの希望を職員が代弁し伝えている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の物、行事食、利用者の食べたい物なども献立にいれている。準備、下膳、食器洗いなど利用者と職員が一緒に行っている。	食事は下準備から食器拭きまで職員と一緒に、食材は配達はなく全て購入であり、週2回利用者と一緒に買い出しに出掛けている。食事は、利用者と職員が同じテーブルを囲み、会話やBGMを楽しみながら摂っている。献立は法人の管理栄養士が作成し、利用者の意見を聞いたり、お裾分けの野菜を活用したりして事業所なりのアレンジを加えることもある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食時・おやつ時の水分提供以外に、必要と思われる時には意図的に勤めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	下膳後洗面所で口腔ケアを促し、行っている。個別の能力に応じた方法で必要な介助を行っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつ使用の方も布パンツとなるように時間やタイミングを観察し、自立に向けた支援となるよう取り組んでいる。	排泄パターンにそった誘導や声掛けをして、トイレを使用しての排泄をケアの基本としている。便意等の不明な方もいるが、時間での声掛けや誘導により事前対応を心掛け、排泄が苦痛や羞恥にならないよう配慮している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食に必ずヨーグルトを出し、10時は牛乳を使用した飲み物にしている。前かがみの姿勢で下肢の力や、腹筋を使って自然排便ができるよう取り組んでいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は決めているが、希望があれば添えるようにしている。衣類の選択、入浴時間など利用者で決めている。	1日3人、午後、1人週2回入浴している。重度者は隣接するデイサービスの機械浴を借りている。夏場はデイサービスの広い風呂にゆったりと浸かることもある。長湯、一番風呂、菖蒲湯、ゆず湯など個々の好みや季節感を味わえる機会を設けるなど入浴が楽しみになるよう心掛けている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夏はエアコンで調節し、冬は足元に湯たんぽを使用し、気持ちよく休めるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師より処方された薬は、薬局で調剤してもらい、薬剤説明書を受け取り保管している。内容を熟知し変化や効用について、注意深く観察している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	朝の掃除のモップ掛け、台拭きや、趣味の生け花、縫い物は張り合いや目的達成の喜びとなっている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	墓参り、買い物、外食など、家人に連絡したり、地域の方との散歩も適切な連携により実現している。	敷地内の散歩、玄関先での日光浴、事業所周辺の散歩と季節や天候に応じて気分転換や五感の刺激、運動機能維持も考慮して戸外に出る楽しみを味わえるよう支援している。花見、紅葉狩り、買い物外出、外食、家族協力による墓参りなど戸外に出る機会が多くなるよう取り組んでいる。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは、一括して金庫で預かり希望に応じて使えるようにしている。お金の心配で相談があった時は、財布の確認をしてもらっている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望は夜間でもお応えし、手紙は自由に書いていただく支援をしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	膝がけなど活用し、温度、湿度など気を配っている。天窓や窓からの明るさもカーテン等で調節している。季節を感じられるよう季節ごとの花を飾ったり、混乱をまねかないよう工夫している。	季節に応じた各種の行事を行うと共に、行事に応じた飾り付けを行っている。居間兼食堂は、同じフロアーにオープンキッチン、周りを囲むように居室があり、同じ空間で一緒に暮らしている居心地の良さが感じられる。トイレは広く、風呂も清潔で明るく使い易くなっている。おはぎ・おやき・二ラせんべい・いもち作りなど季節と共に味わえるおやつ作りなども楽しんでいる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベランダ前にソファを置き、談笑を楽しめるよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物、お気に入りの物等は常に目に触れる場所に置き、馴染みの品々に囲まれた環境作りを心がけている。	ベッドとタンス以外は全て利用者の好みに応じて思い思いの物が持ち込まれ、テレビや椅子、写真、物入れなどの配置を工夫し、自分なりの部屋作りをしている。暖房はエアコンであるが、夜間は部屋の乾燥を考慮して止める時間帯を設け、全員が湯たんぽを使用して気持ち良く睡眠がとれるよう工夫している。清掃と整理は職員が支援しながら毎朝行われており、自分の部屋である思いを強くする配慮をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	運動機能が維持できることを目標に、できることが低下しないよう、わかることを周囲の人から承認されるよう場面作りをしている。	/	/

## 目標達成計画

作成日:平成26年3月10日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	スプリンクラーの効力の把握が出来ていない。	効力の把握。	業者から説明を受け、全職員が把握する。	1ヶ月
		防災訓練が実践的なものになっていない。	夜想定 of 防災訓練の増加。	消防署と密にし、協力を得る。現実に起こり得る状況を検討し訓練を重ねていく。	12ヶ月
2	10	苦情処理のシステムの中で、第三者委員が選任されていない。	第三者委員の選任。	上田市高齢者介護課へ問い合わせ紹介を依頼し委員を選任する。	1ヶ月
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。